

2025 Asian Expert Series

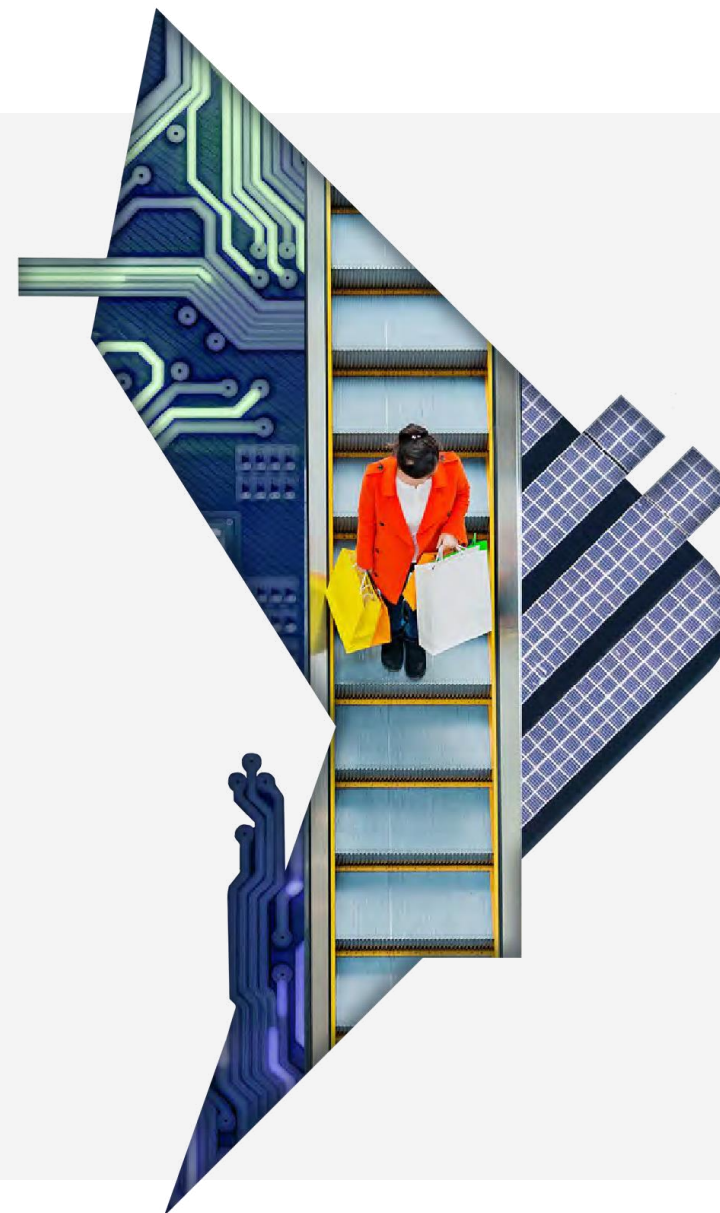
アジアの次なる章を読む： テクノロジー、消費、持続可能性が 描く未来

アジアは、世界の成長ストーリーを再定義し続けています。特に、他地域では政策の不確実性が見通しを曇らせる中、アジアはその存在感を一層強めています。急速なイノベーション、進化する消費者動態、そして持続可能性への揺るぎないコミットメントは、なぜアジアが投資家のポートフォリオにおいて不可欠な要素であり続けるのかを示しています。地域がより多様でダイナミックになるにつれ、アクティブな投資アプローチは、幅広い機会を捉え、複雑化する市場環境を管理するために不可欠です。

2025 Asian Expert Seriesの焦点

本シリーズでは、アジアの未来を形作る3つの変革要因と、それに伴う投資機会を示す厳選チャートを紹介합니다。

- ▶ テクノロジー主導のイノベーションデジタル化とAIの進展が、製造業からサービス業まで幅広い分野で競争力を強化。
- ▶ 消費者主導の成長中間層の拡大と購買力の向上が、消費市場を大きく押し上げる。
- ▶ サステナビリティ推進による進歩ESG投資や再生可能エネルギーへのシフトが、長期的な成長の鍵に。



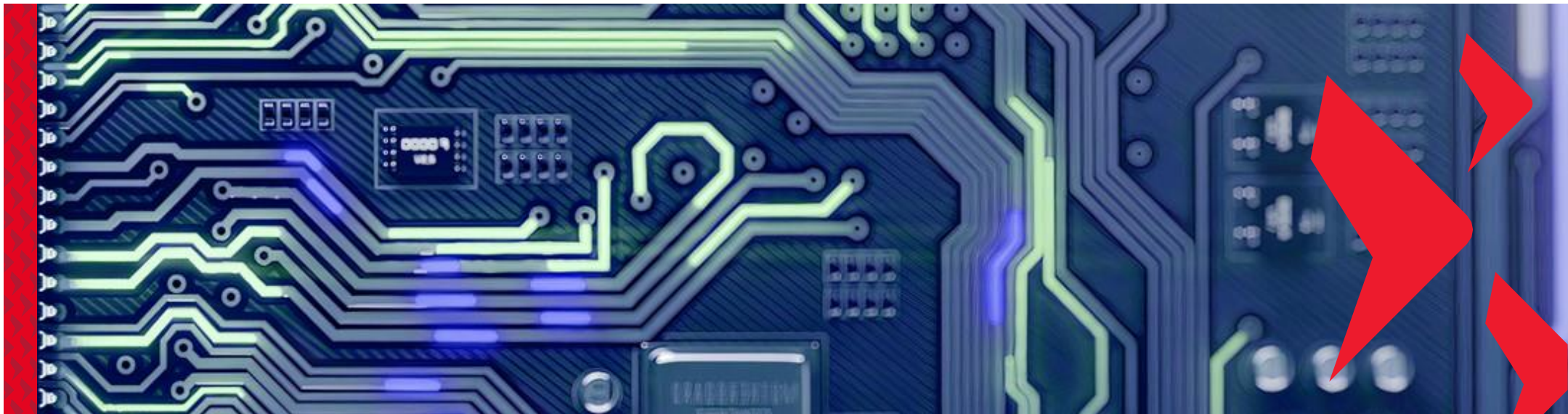
Think Asia. Think Active.

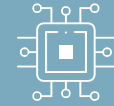
英国ブルーデンシャル社は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルーデンシャル・ファイナンシャル社、および英国のM&G社の子会社であるブルーデンシャル・アシュアランス社とは関係がありません。※ご留意いただきたい事項を最終ページに記載しております。

2025 Asian Expert Series

アジアの未来を切り拓く テクノロジー主導のイノベーション

イノベーションは、アジアの経済成長を解放し、構造転換を加速させ、新たな市場を形成する戦略的な推進力です。インドの「シリコンバレー」、日本のつくばサイエンスシティ、台湾の新竹サイエンスパークなど、イノベーションはアジアの発展ストーリーに深く根付いています。重要なのは、アジアの上場テクノロジー企業が幅広い産業にまたがり、投資家に多様なエクイティ投資機会を提供している点です。



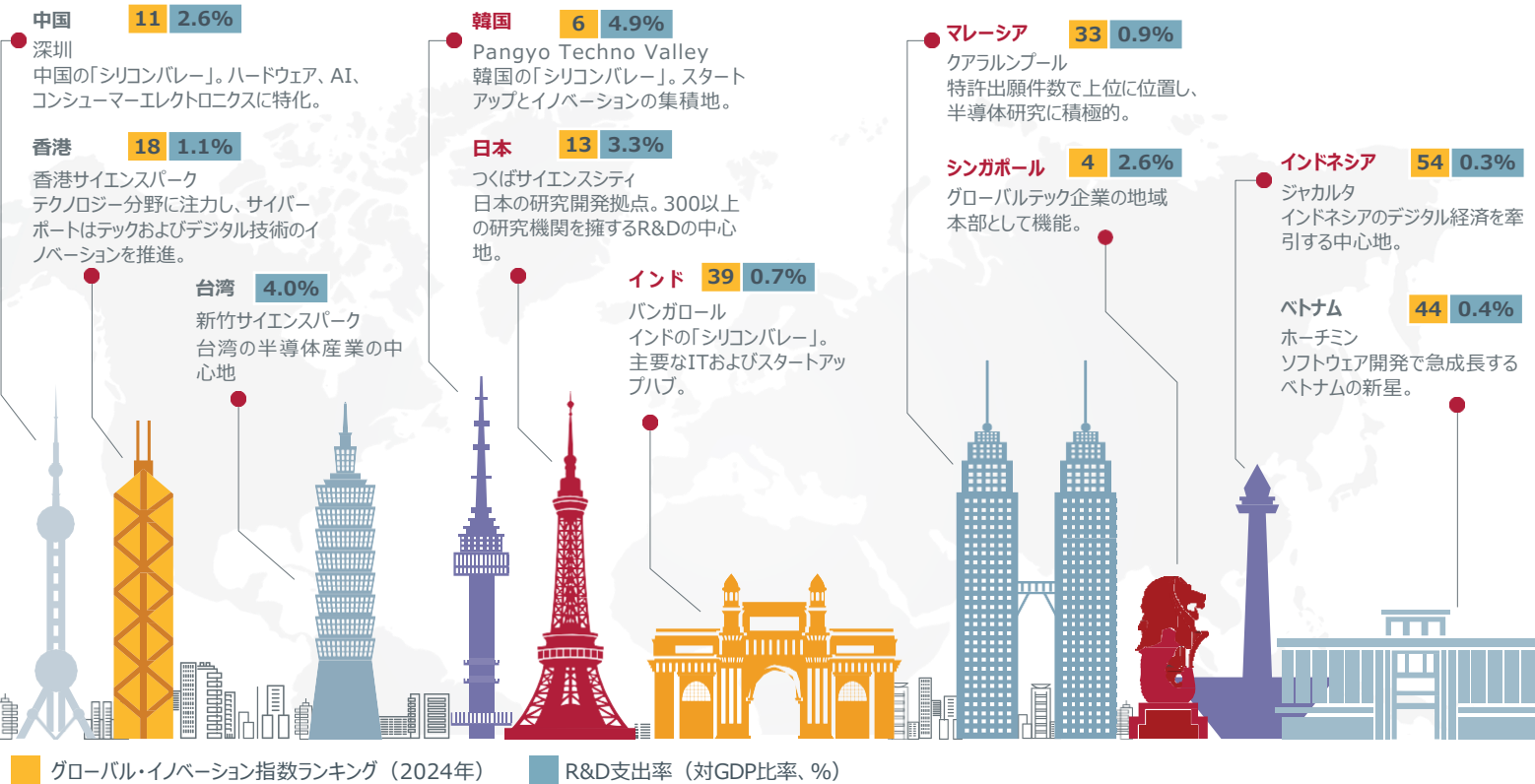


アジアの未来を切り拓く
テクノロジー主導の
イノベーション

アジアを牽引するイノベーションリーダー

2010年から2020年にかけて、テクノロジーとイノベーションはアジアのGDP成長の約50%¹を牽引しました。さらに、2020年から2030年にかけても、地域の予想GDP成長の43%²を占めると見込まれています。

堅調な研究開発（R&D）投資と、支援的な規制環境が、アジア各地でイノベーションハブの台頭を後押ししています。



“
 アジアは長らく製造業の優位性で
 知られてきましたが、今やグローバル
 なイノベーション拠点としての役割
 がますます注目されています。中国、
 日本、韓国、そして台湾は、産業生
 産を牽引するだけでなく、人工知能
 (AI)、ロボティクス、半導体技術
 におけるブレークスルーを主導し、デ
 ジタル経済の最前線に地域を位置
 づけています。
 Rebecca Lin
 運用責任者
 イーストスプリング (台湾)
 ”

¹ McKinsey Global Growth Model : 全要素生産性 (Total factor productivity) は、テクノロジーとイノベーションが経済に与える寄与度を測る包括的な指標。

² アジアが約4%のGDP成長を維持するために必要な条件。McKinsey Global Institute “How can Asia boost growth through technological leapfrogging”

出所: グローバル・イノベーション指数ランキング: 「Unlocking the Promise of Social Entrepreneurship」(2025年6月)。R&D支出率: Lowy Institute of Asia Power Index 2024 Edition、Statista (最新年次データ)。

Think Asia. Think Active.



アジアの未来を切り拓く
テクノロジー主導の
イノベーション

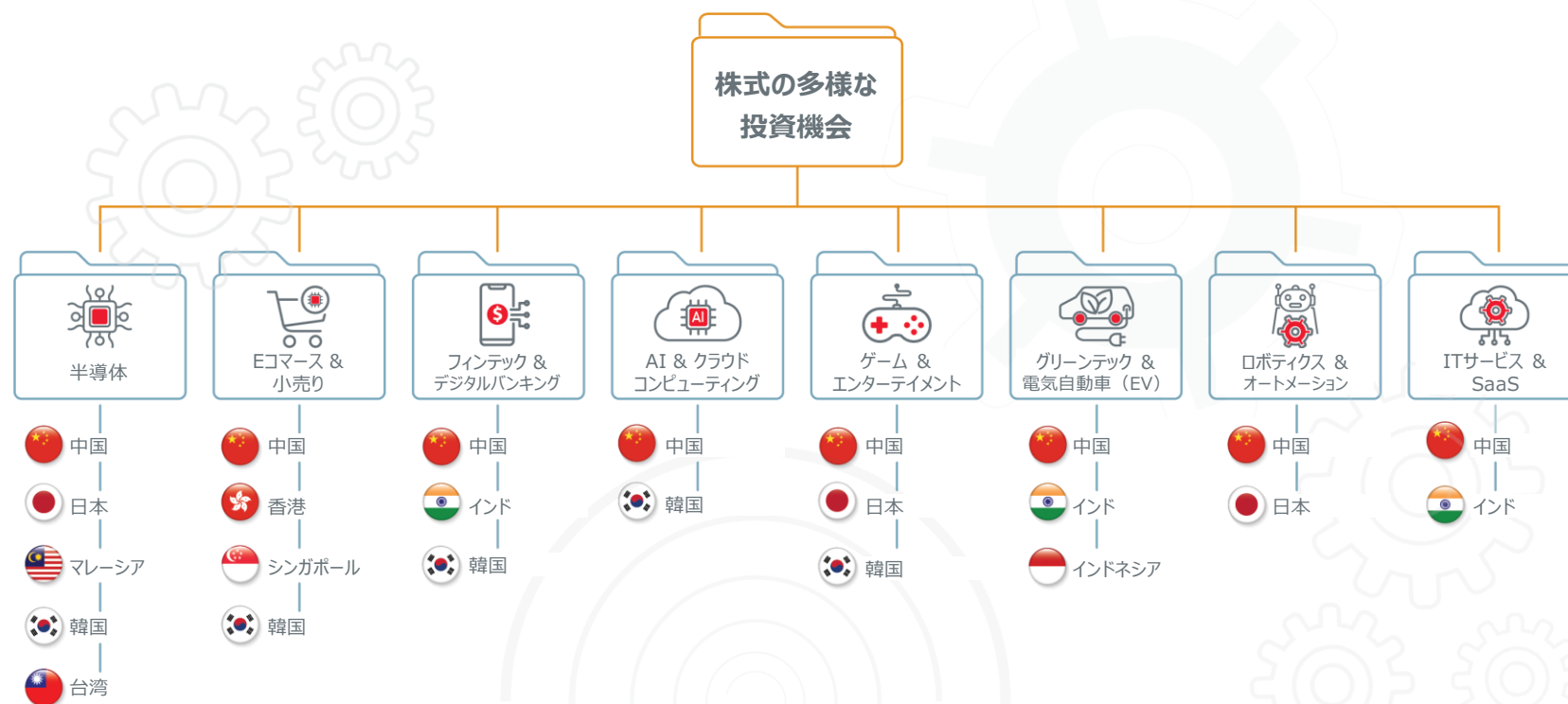
広がる投資機会と深まる構造変化

株式市場において、アジアの上場テクノロジー企業は幅広い産業にまたがり、投資家に多様な機会を提供しています。MSCIアジア太平洋指数におけるテクノロジーセクターの比率は、2005年の**15%**から2025年には**20%**へと上昇¹しており、これは地域の経済構造の変化を反映しています。



アジアのテック企業による債券発行は限定的です。多くの企業が十分な営業キャッシュフローを生み出し、投資ニーズを自社資金でまかなえるためです。さらに、これらの企業は債券市場に頼らず、より低コストな資金調達手段にアクセスできる可能性が高いと考えられます。

Clement Chong
債券運用部リサーチヘッド
イーストスプリング・シンガポール



¹ Datastream (2025年6月11日時点)
MSCI指数はMSCI Inc が算出している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はMSCI Inc に帰属します。またMSCI Inc は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

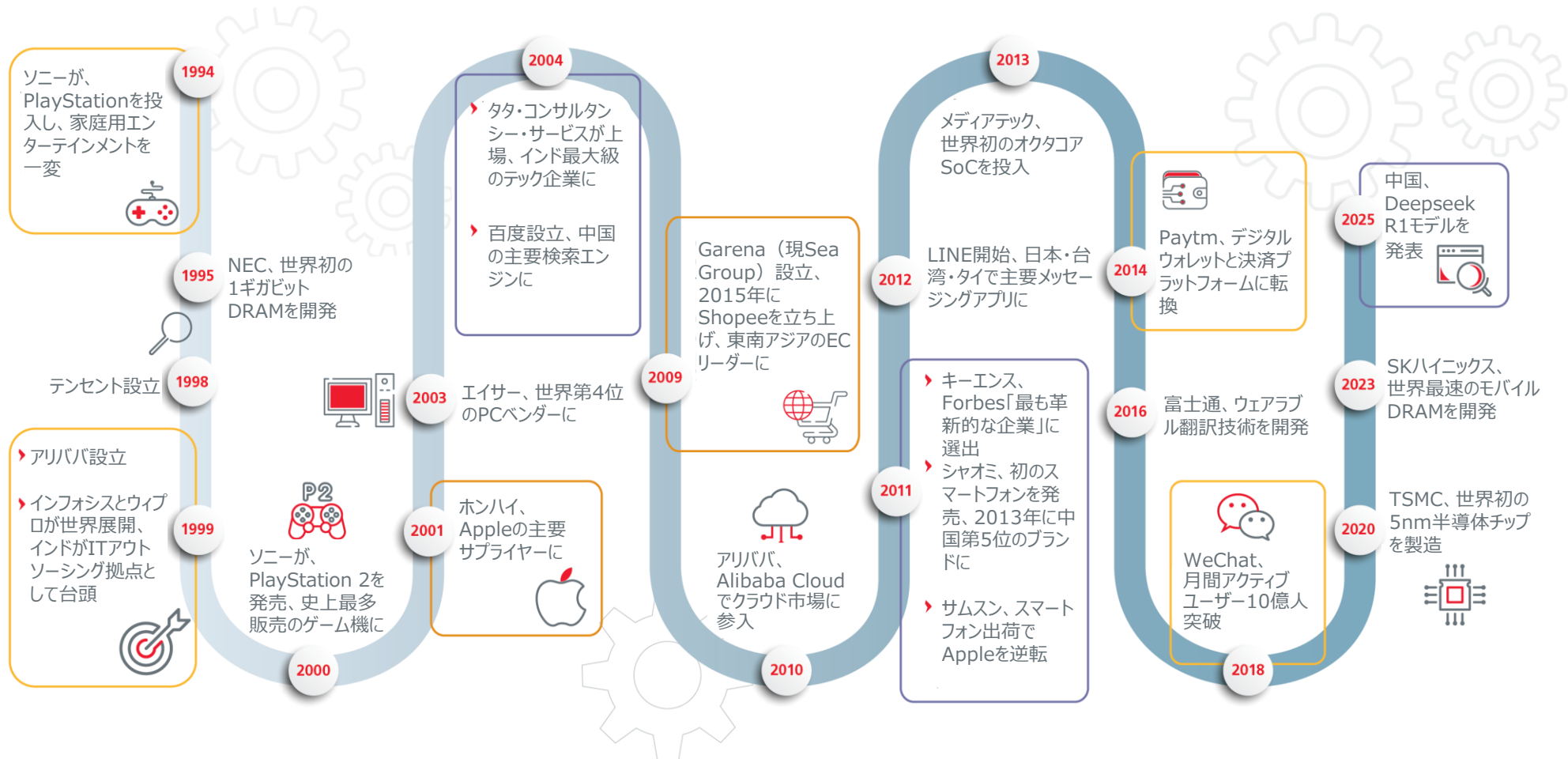
Think Asia. Think Active.



アジアの未来を切り拓く
テクノロジー主導の
イノベーション

テックの軌跡

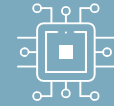
アジアのテクノロジー史における数々の重要な転換点は、長期投資家にとって魅力的な投資機会をもたらしてきました。



出所：各企業のウェブサイトのデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ（シンガポール）作成。個別企業の記載は情報提供を目的とするものであり、当該企業の株式／債券について組入の保証や売買の推奨をするものではありません。

Think Asia. Think Active.

※ご留意いただきたい事項を最終ページに記載しております。



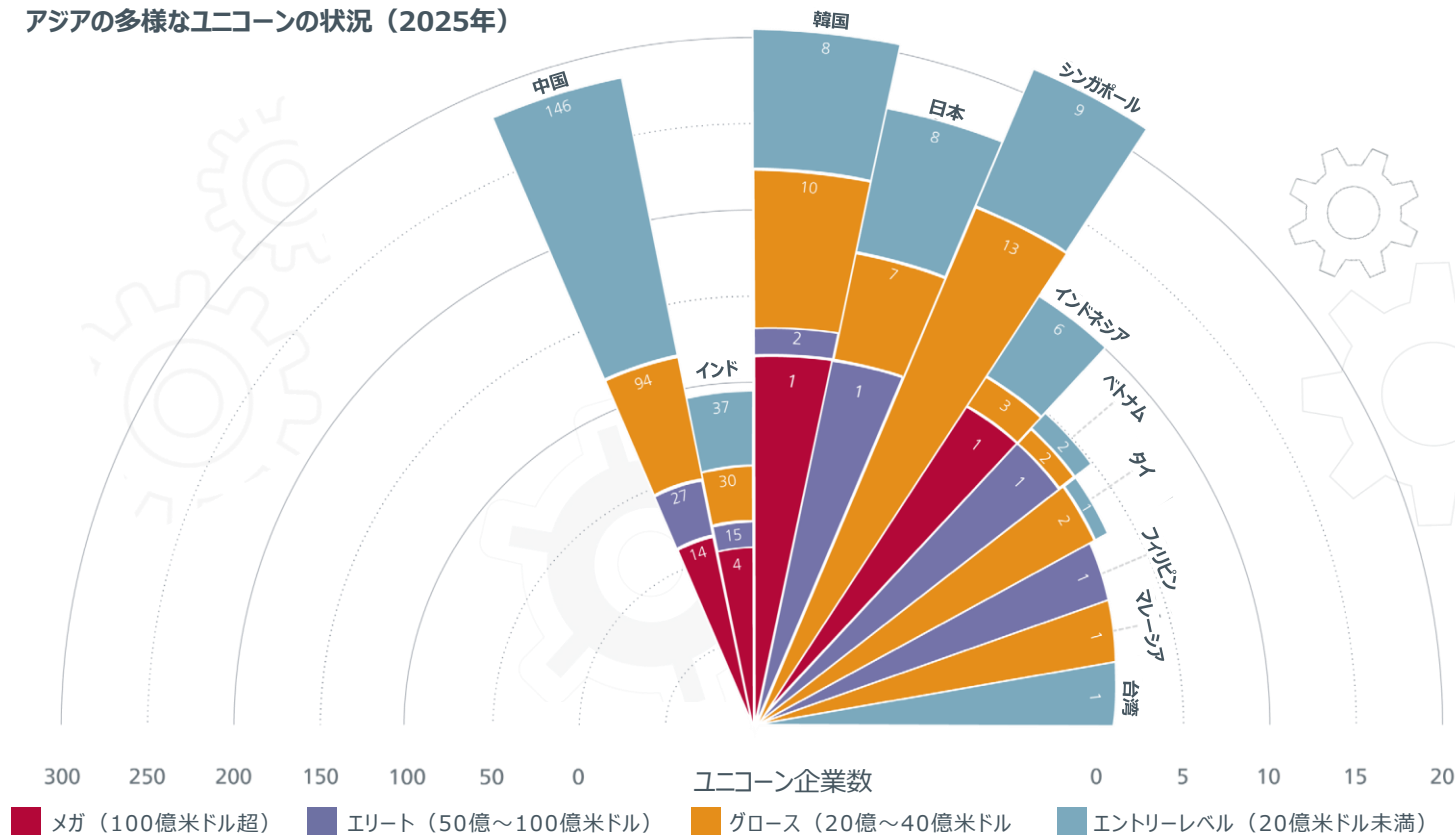
アジアの未来を切り拓く
テクノロジー主導の
イノベーション

ユニコーンの夢

アジアは多数の上場テクノロジー企業を擁するだけでなく、多様なユニコーン企業のエコシステムを形成しています。米中間の緊張は、地域全体でデジタルインフラ、人工知能（AI）、フィンテックへの投資を加速させています。

かつて米国でのIPOを目指していた東南アジアのテック企業は、プライベートエクイティの支援拡大や国内改革を背景に、地場取引所へのシフトを強めています。しかし、投資家は引き続き慎重な見極めが求められます。

アジアの多様なユニコーンの状況（2025年）



“

活況を呈するスタートアップ・エコシステムは、投資家に新たな機会をもたらす可能性があります。しかし、IPOで成功裏に出口を見つけられるのは、事業が持続可能で収益性を備えた企業のみです。そうでなければ、多くの場合、スタートアップは事業の方向転換を余儀なくされるか、資金力のある競合に売却されるか、生き残りのために合併することになります。

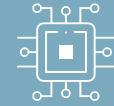
Liew Kong Qian
運用責任者

イーストスプリング（インドネシア）

”

出所：Global Unicorn Report 2025（2025年6月）のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ（シンガポール）作成。本データは、ベンチャーキャピタルによる支援を受けることが多い、評価額10億米ドル以上の非公開スタートアップ企業を反映しています。
参考：Southeast Asia's IPOs poised for rebound in 2025 but clouds loom - Nikkei Asia（2025年1月）、Top IPOs to watch in 2024 - APAC region - AlphaSense（2025年3月）。

Think Asia. Think Active.



アジアの未来を切り拓く
テクノロジー主導の
イノベーション

Think active : アクティブ運用の投資機会

アジアのテクノロジーセクターは、キャピタルゲインと配当収入を兼ね備えた魅力的な投資機会を提供します。しかし、セクター内のパフォーマンスには大きなばらつきがあるため、勝ち組銘柄を見極め、下方リスクを抑えるには、リサーチ主導の銘柄選択アプローチがますます重要になっています。

“

テクノロジー株をめぐる魅力的な成長ストーリーは、過去においてバリュエーションが過熱する局面を生み出してきました。こうした中、価値重視のアプローチは、長期的な成長の上振れを低コストで捉える手段となり得ます。

Terence YT Lim
ポートフォリオマネジャー、イーストスプリング・シンガポール

”

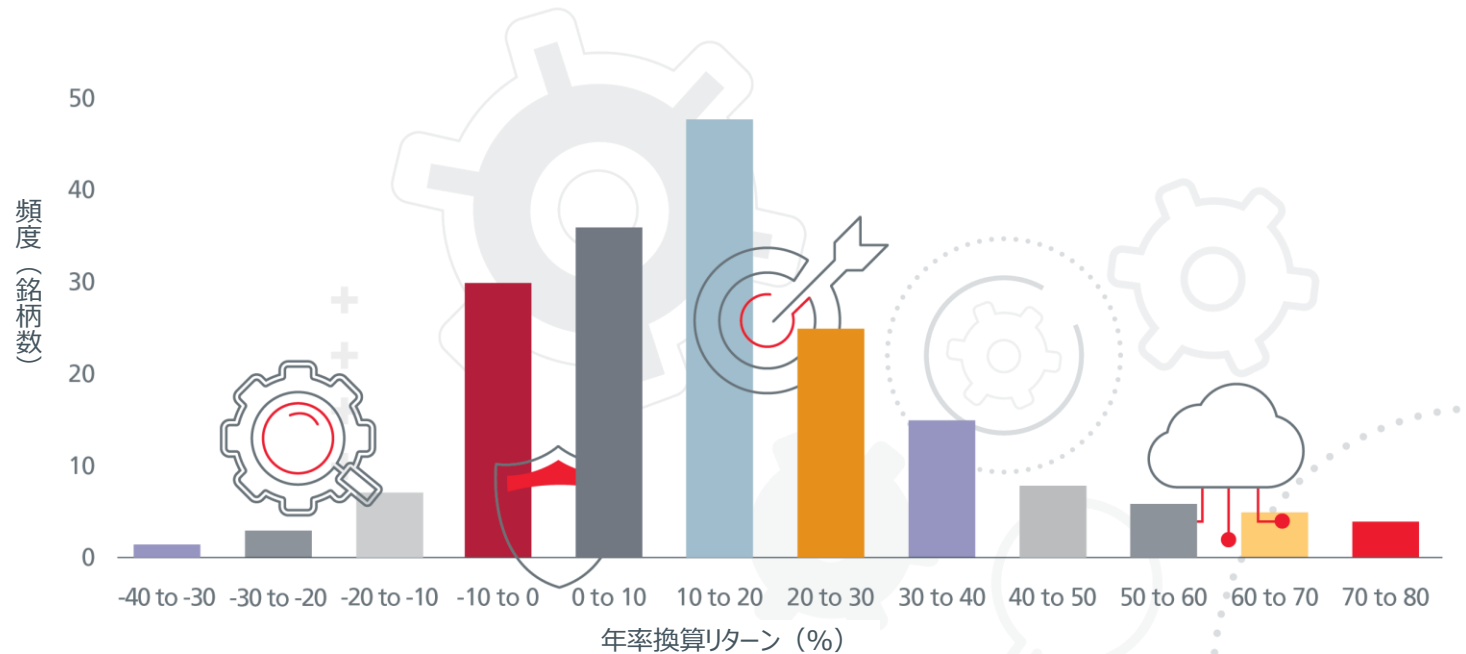
“

アジアのテクノロジー企業は、魅力的なインカム投資アイデアを見つけるための有望なユニバースとなり得ます。しかし、ここで重要なのは「見極め」です。アジアのテック・サプライチェーンは非常に深く、多様であり、どのサブセグメントに属するかによって、成長ドライバーや資本配分のニーズは異なります。このため、投資家はファンダメンタルズにしっかり焦点を当て、インカムと成長が交差するポイントを理解する必要があります。それによって、このユニークな投資機会を最大限に捉えることができるのです。

Christina Woon
ポートフォリオマネジャー
イーストスプリング・シンガポール

”

アジアのテック株リターン分布 (2015年~2025年)



出所：Bloomberg L.P.のデータ（2025年6月時点）に基づきイーストスプリング・インベストメンツ（シンガポール）作成。MSCI Asia Pacific Information Technology Index構成銘柄の10年間年率換算リターン（または利用可能な最長期間の年率換算リターン）。MSCI指数はMSCI Inc が算出している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はMSCI Inc に帰属します。またMSCI Inc は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

Think Asia. Think Active.

2025 Asian Expert Series

消費が変えるアジアの未来： 成長の新たなエンジン

アジアにおける消費ブームは、所得の上昇と急速に拡大する中間層によって牽引されています。テクノロジーに精通した若年層の消費者は、デジタルプラットフォームやSNSを通じて需要のあり方を再定義しており、都市化の進展と下位都市の台頭が新たな消費拠点の形成を促しています。これらの要素が相まって、アジア全域において多様かつダイナミックな消費市場が広がっています。





消費が変える
アジアの未来：
成長の新たなエンジン

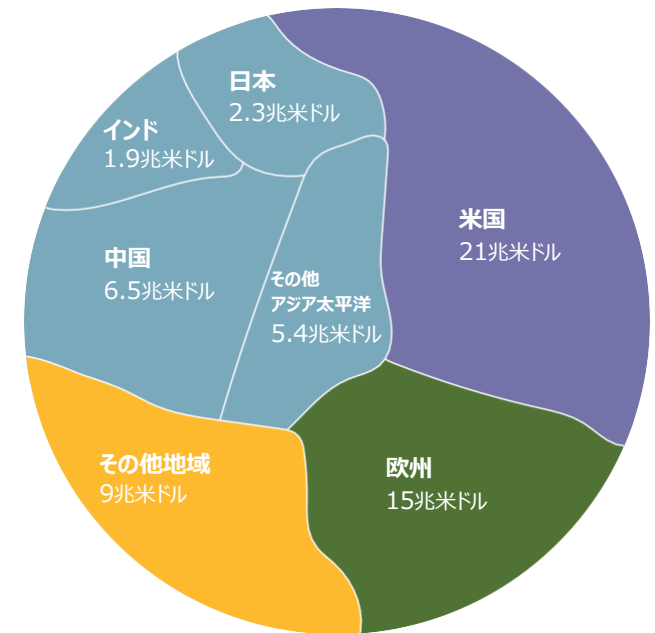
消費ブーム

アジアは、**2025年に世界で新たに加わる1億3,400万人の消費者のうち、80%以上を占めると**予測されています。このことから、アジアにおける**消費者層の拡大は、世界で最も有望な投資機会**のひとつとして位置づけられます。さらに2030年代には、**世界の消費取引の2件に1件がアジアで行われる**ようになる見通しです*。

世界全体の消費者**に占めるアジアの割合は着実に上昇



地域別消費支出（2025年）



グローバル企業にとって、アジアの消費者に向けた戦略はもはや「選択肢」ではありません。次の10億人の顧客は、まさにこの地域から生まれてくるのです。

Juilice Zhou
コンシューマー&ヘルスケアセクターリサーチ責任者
イーストスプリング・インベストメンツ（香港）



図表出所：World Data Lab, 2025（2017年購買力平価ベース）のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ（シンガポール）作成。

* McKinsey Global Institute "The emergence of new consumer segments and implications for companies in Asia and Thailand (October 7, 2021)"

**「消費者」とは、1日あたり少なくとも12米ドルを支出する個人を指します。

Think Asia. Think Active.



消費が変わる
アジアの未来：
成長の新たなエンジン

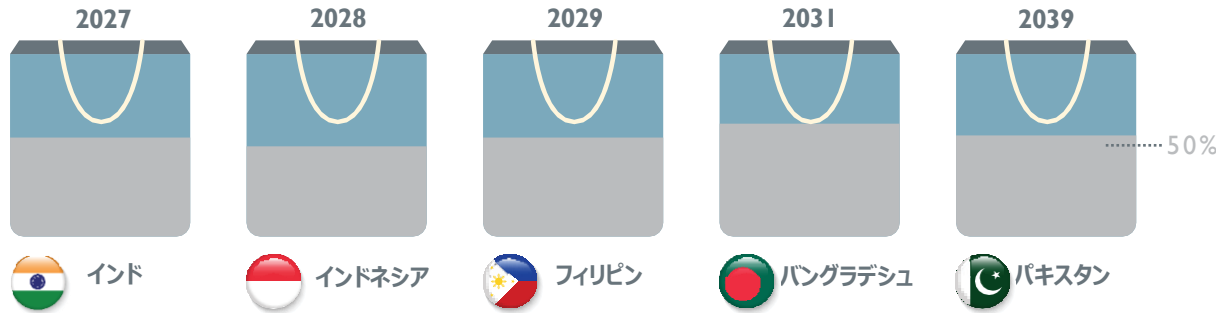
成長の原動力

アジアの消費支出は、**可処分所得の増加、低水準の家計債務、インフレ率の低下**によって活性化されています。アジアの人々が消費者層へと移行・拡大するにつれ、**生活必需品からプレミアム商品に至るまで、幅広い需要が高まり、多様な投資機会が生まれています**。主要なアジア市場は、**2040年までに「消費の転換点（tipping point）」に到達すると予測されており、消費主導型の成長が本格化する見通しです**。

アジア各国の消費者層の人口比率

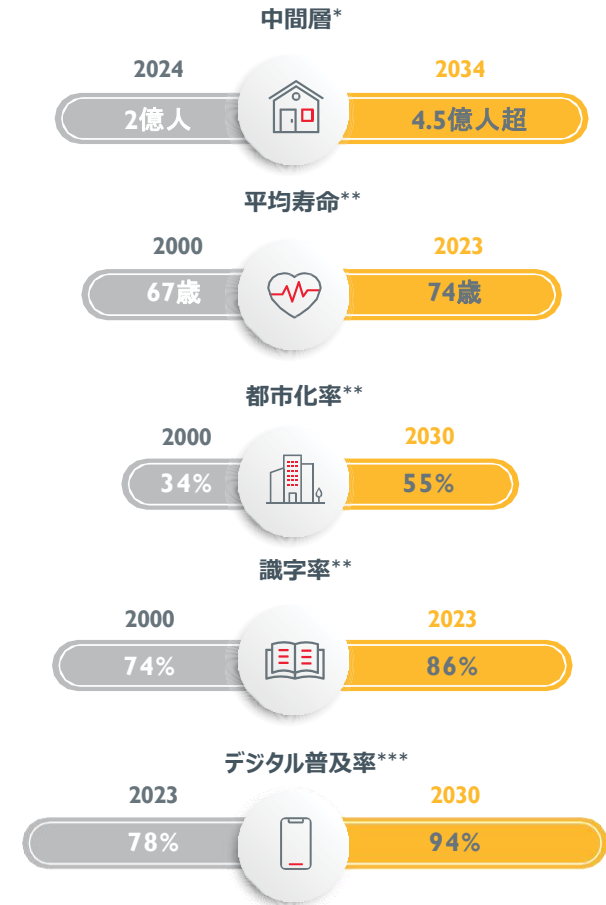


消費者層比率が50%を超える年



■ 消費者層

アジアの経済成長を支える原動力



図表出所：World Data Pro, 2024のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ（シンガポール）作成。*中間層の定義はOxford Economicsに準拠し、年間可処分所得が20,000〜70,000米ドルの範囲とする。

東アジア・太平洋と南アジア（世界銀行の地域分類に基づく）の平均値と、ユニセフによる2030年都市化率予測。*GSMAによるアジア太平洋地域のスマートフォン普及率。

Think Asia. Think Active.



消費が変わる
アジアの未来：
成長の新たなエンジン

消費パターン

アジアの消費関連企業は、**広範な競争優位性（moat）**、革新的な商品・サービス、そして高い資本収益率を背景に、急速な成長を遂げています。ただし、**消費者行動は市場ごとに異なる**ため、投資家が真の価値を引き出すには、**アクティブかつローカライズされた投資戦略**が不可欠です。

ニーズからウェルネスまで（生活必需品から健康志向へ）：地域ごとに異なる消費傾向



“

自国市場で製品力を証明した複数のアジア消費関連企業が、汎アジア展開（場合によってはグローバル展開）を進めており、これにより対象市場（アドレスサブルマーケット）が大幅に拡大しています。

Sundeep Bihani
ポートフォリオ・マネジャー
イーストスプリング・インベストメンツ（シンガポール）

”

図表出所：Asian consumer study 2024 (Roland Berger) のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ（シンガポール）作成。

Think Asia. Think Active.

※ご留意いただきたい事項を最終ページに記載しております。



消費が変わる
アジアの未来：
成長の新たなエンジン

新たな潮流

2030年までに、**アジア太平洋地域の消費者の約50%をZ世代およびミレニアル世代*が占める**ようになります。この若年層は、域内の生産年齢人口を支える存在であり、**経済活動において極めて重要な勢力**となる見通しです。彼らの消費習慣は、投資機会の構造を大きく変える可能性があり、今後の市場形成において中心的な役割を果たすことが期待されています。

未来の消費者マインドセットの変化



ウェルネス重視型

主な動機

- ▶ 健康の優先
- ▶ ライフスタイルとの整合性

恩恵を受ける業種

ヘルスケアプラットフォーム、ウェルネス志向の日用消費財ブランド、非必需品（エンタメ関連商品、コレクターズアイテム）



価値重視型

主な動機

- ▶ 目的志向の消費
- ▶ 柔軟で手頃な選択肢

恩恵を受ける業種

生活必需品、自己成長支援サービス



意識的生活志向型

主な動機

- ▶ 責任感
- ▶ 社会的インパクトを重視した選択

恩恵を受ける業種

エコ住宅関連商品・包装、エシカルファッション



デジタル利便性志向型

主な動機

- ▶ 手軽なアクセス
- ▶ スピードと効率性

恩恵を受ける業種

eコマース大手、AIスタートアップ、フィンテックの創造的破壊者企業、オムニチャネル提供企業



過去1年間でインドにおける最大の消費トレンドは、「**クイックコマース（即時配送）**」の台頭です。都市部の消費者は、ますます多様化する商品群に対して**10分以内の配送サービス**を享受しており、「**即時満足（インスタント・グラティフィケーション）**」を通じて購買習慣が大きく変化しています。

Yuan Yiu Tsai
ポートフォリオ・マネジャー
イーストスプリング・インベストメンツ（シンガポール）

中国では、若年層のニーズに特化したユニークな商品・サービスを提供する企業が成長を遂げています。

注目すべき投資機会としては、ペットフード企業、感情的ニーズに訴えるIP（知的財産）主導型商品、そしてAI機能を備えた手頃な価格のエンターテインメント系モバイルアプリなどが挙げられます。

Jocelyn Wu
ポートフォリオ・マネジャー
イーストスプリング・インベストメンツ（香港）



図表出所：イーストスプリング・インベストメンツ（シンガポール）作成。*Z世代（1996年～2012年生まれ）、ミレニアル世代（1980年～1995年生まれ）

Think Asia. Think Active.



消費が変える
アジアの未来：
成長の新たなエンジン

アクティブな投資機会

アジア太平洋地域では、消費関連セクターにおける新規上場（IPO）が増加傾向にあり、特にインドおよびASEAN諸国においては、高成長が期待される投資機会が数多く生まれています。急成長するeコマース市場、医療・ヘルスケア需要の拡大、そして旅行・ホスピタリティ分野の回復が、IPOの勢いを後押ししています。こうした環境下では、的確な銘柄選定が、上昇余地を捉える鍵となります。



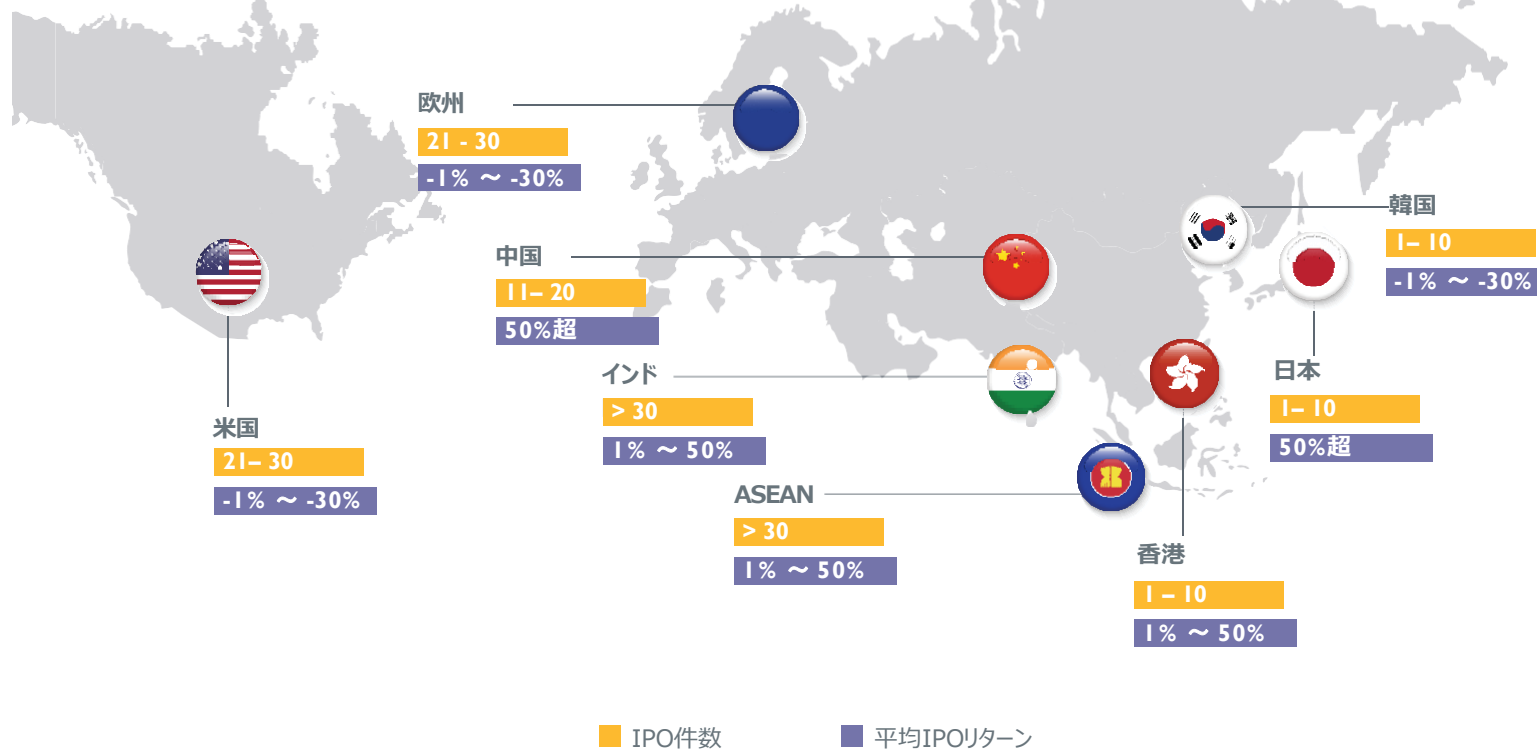
消費関連セクターは、幅広い配当投資の機会を提供しています。景気回復局面で業績と配当が増加する自動車など景気敏感銘柄（シクリカル銘柄）から、安定した配当利回りが期待できる乳製品や飲料などの生活必需品関連銘柄まで、多様な選択肢が存在します。

アクティブな視点と選別力を持てば、誰にとっても魅力的な投資先が見つかるはずです。

Christina Woon
ポートフォリオ・マネジャー
イーストスプリング・インベストメンツ（シンガポール）



アジアの消費関連IPOラッシュ（2024年）：件数とリターンへの動向



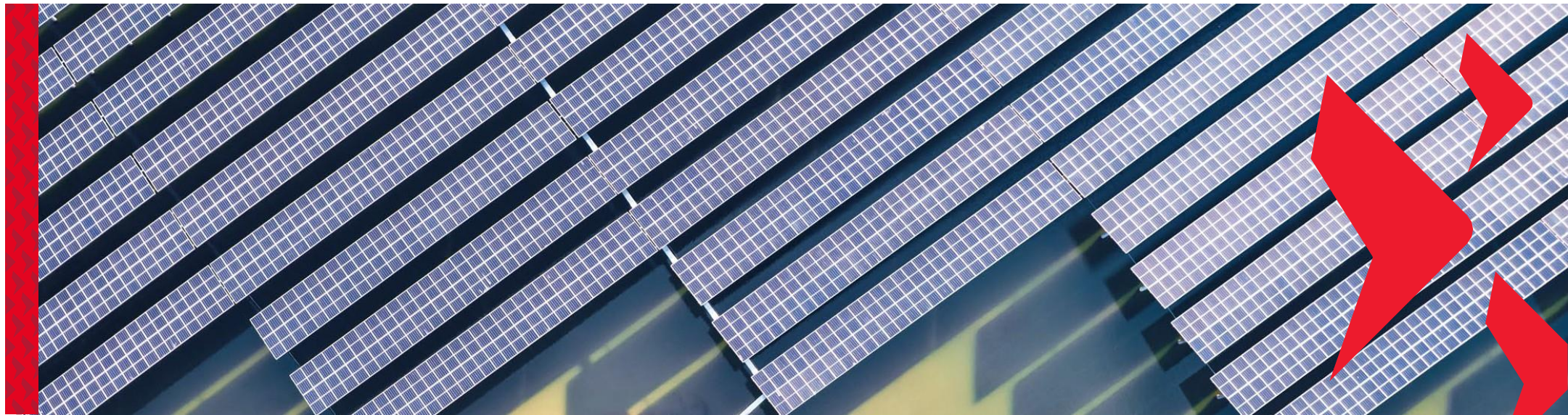
図表出所：EY 2024 IPO reportのデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ（シンガポール）作成。

Think Asia. Think Active.

2025 Asian Expert Series

アジアの持続可能性が切り拓く 投資機会：

アジアは気候変動の影響を最も強く受ける地域の一つであり、同時に世界最大級の脱炭素市場です。この構造的変化は、グリーン関連製品やサービスを提供する企業、さらには持続可能な事業モデルへ移行する企業に対して、株式・債券両市場で新たな投資機会を創出しています。各国政府の政策支援を背景に、アジアは長期的なレジリエント成長の基盤を築きつつあります。



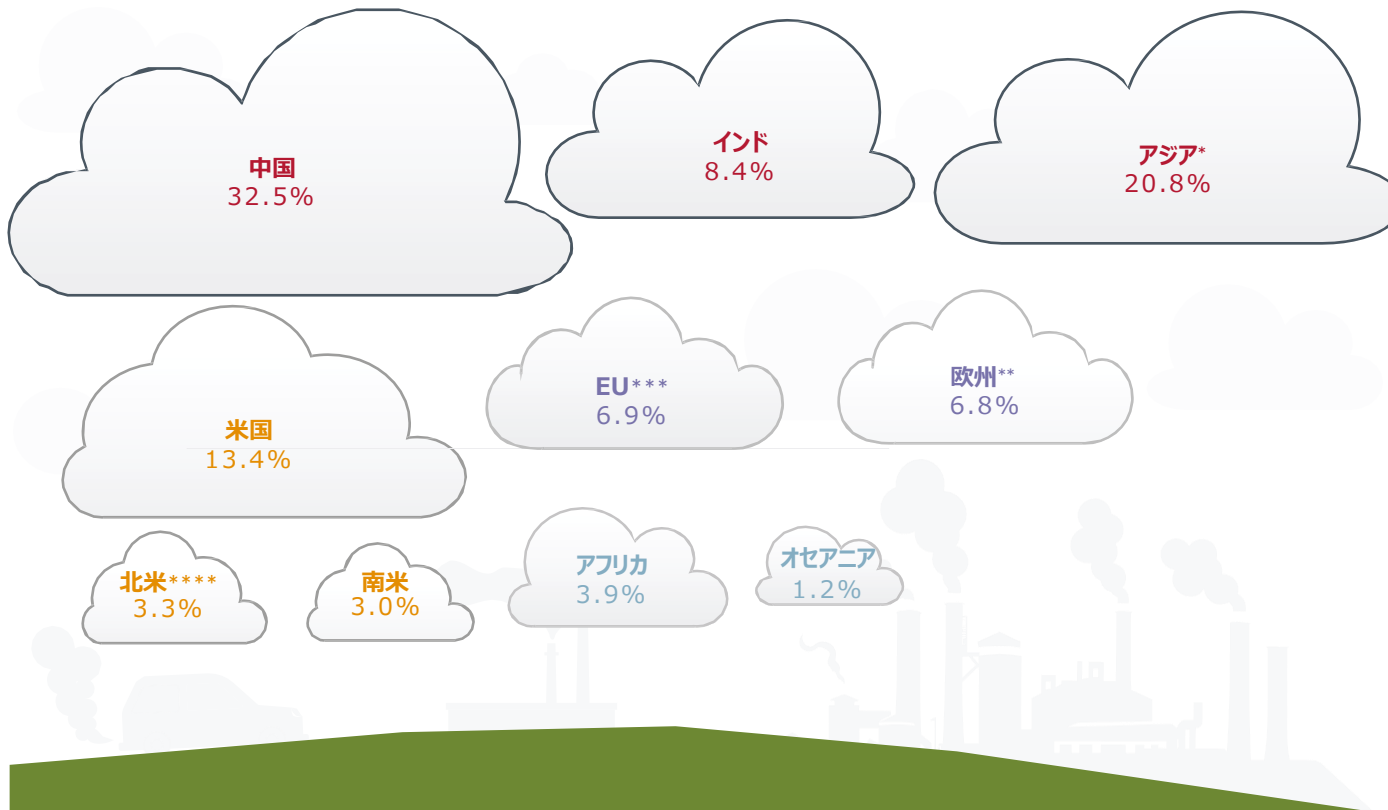


アジアの
持続可能性が
切り拓く投資機会

世界最大の脱炭素市場：アジア

アジアは世界の温室効果ガス排出量の60%以上を占めており、ASEAN諸国は気候目標を達成するために、2030年まで年間約2,000億米ドルのグリーン投資を必要としています。

カーボンホットスポット（CO₂排出が最も多い工程や領域）：なぜアジアの転換が重要なのか



“

アジアは気候変動の影響を最も強く受ける地域の一つであり、気候ソリューションに対するユニークな機会を提供します。これは、投資家にとって気候投資ギャップを埋め、インパクトを創出し、長期的なリターンを獲得する絶好のチャンスとなります。

Joanne Khew
ESGスペシャリスト
イーストスプリング・インベストメンツ
(シンガポール)

”

世界のCO₂排出割合（2023年）

図表出所：Our World in Data, Infrastructure Finance, Green Finance in Emerging Asiaのデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ（シンガポール）作成。
*中国およびインドを除く **EU-27を除く *** EU-27を指す **** 米国を除く

Think Asia. Think Active.

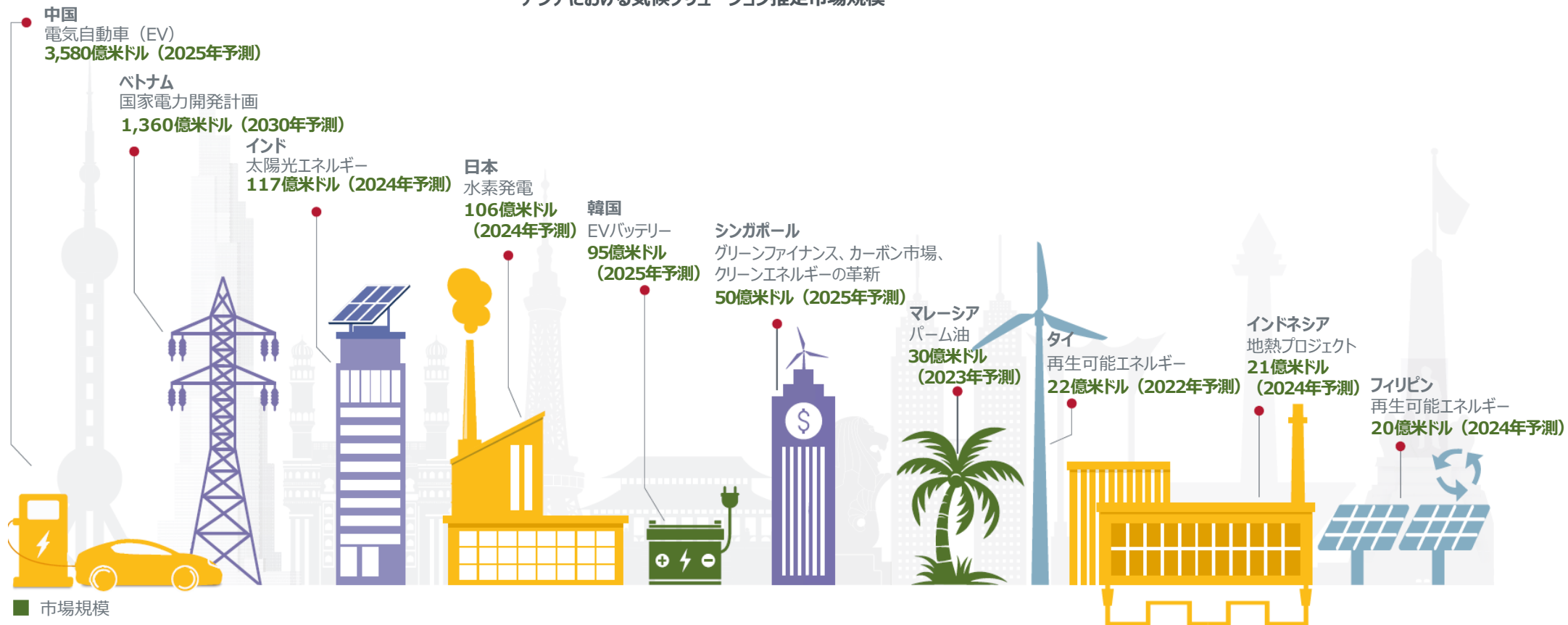


アジアの
持続可能性が
切り拓く投資機会

急成長する気候ソリューション市場

アジアの低炭素経済への移行は、電気自動車（EV）、EVバッテリー、再生可能エネルギー、そして持続可能な燃料の成長を加速させています。これにより、投資家に新たな投資機会が生まれています。

アジアにおける気候ソリューション推定市場規模



出所：各データに基づきイーストスプリング・インベストメンツ（シンガポール）作成。China: Electric Vehicles Research Report 2030 India: Solar Energy Report 2030, Japan: Hydrogen Generation Forecast by Technology, Systems Type, Application, and Region, 2025-2033, South Korea: Electric Vehicle Battery Market Research Report, Singapore: Singapore Business Review, Malaysia: Palm Oil Market Size & Outlook 2030, Thailand: Renewable Energy Market Summary and Forecast to 2027, Vietnam: NEWS, Reccessary, Indonesia: Investing in Indonesia's Geothermal Energy Sector, Philippines: Renewable Energy Market Report 2025 - 2030.

Think Asia. Think Active.



アジアの
持続可能性が
切り拓く投資機会

ESG統合の加速

アジア各国政府は、地域の持続可能な発展を形成する中で、規制改革や政策支援を通じてパブリックマーケットにおけるESG統合を積極的に促進しています。こうした支援の主なメリットは以下の通りです：

- ▶ 投資家の信頼向上と規制リスクの軽減
- ▶ グリーン投資に対する税制優遇や補助金などの企業インセンティブ
- ▶ 気候目標やSDGsに沿った国際投資資本の流入
- ▶ 継続的な投資可能プロジェクトのパイプライン形成

アジアのサステナビリティ報告の現状

中国

主要証券取引所に上場する**400社超**が、2026年までにサステナビリティ報告書の発行を義務付けられています。

インド

Securities and Exchange Board India (インド証券取引委員会) は、**時価総額上位1,000社**に対し、ビジネス報告およびサステナビリティ報告の更新を義務化。

タイ

SET (タイ証券取引所) は、すべての上場企業に対し、GRI基準に沿った「**コンプライ・オア・エクスプレイン (遵守か説明か)**」モデルでサステナビリティ情報#の開示を要求。

マレーシア

Malaysia's National Sustainability Reporting Frameworkは、**2025年から大企業にESG開示を義務付け**、段階的に中小企業にも適用。

シンガポール

SGX (シンガポール取引所) は、**2025年度からすべての上場企業にISS基準に基づく気候関連開示を義務化**。

韓国

2021年に**K-ESGガイドライン**と**K-taxonomy**を導入し、企業のESG評価の枠組みを提供。

日本

東京証券取引所に上場する企業に対し、TCFDの推奨に基づく**サステナビリティ開示規制を強化**。

ベトナム

上場企業^^に**GRI基準に沿ったESG報告を義務付け**、2028年までに**国家カーボントレーディングプラットフォーム**を導入予定。

フィリピン

上場企業に対し、TCFD採用を促進する「**コンプライ・オア・エクスプレイン**」モデルでサステナビリティ報告書*の提出を義務化。

インドネシア

OJK (金融サービス庁) は、TCFDおよびGRIに基づく**ESG開示を上場企業に義務付け****。

図表出所：Guide to Asia Pacific's ESG Regulations & Sustainability Reporting Landscape, SEBI Mandates ESG Reporting for Top 1000 Listed Companies, An Overview of Current ESG Disclosures in ASEAN Countries - Fuller Academyのデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ (シンガポール) 作成。

*Under SEC Circular 4/2019 **Under POJK 51/2017 ^^Under Circular 96/2020 ^2025年にScope 1およびScope 2排出量に焦点を当て、2026年にはScope 3排出量に拡大 #Form 56-1 One Reportを通じて

ESGは、Environmental (環境)、Social (社会)、Governance (ガバナンス) を指し、ESGフレームワークの3つの中核的な柱を構成します。TCFD：The Task Force on Climate-related Financial Disclosures (TCFD) は、企業や金融機関が気候関連の財務リスクを開示するための標準化されたガイドラインを策定する国際的な組織であり、投資家、ステークホルダーに対してより効果的な情報提供を支援します。GRI：The Global Reporting Initiative (GRI) は、企業や機関が環境・社会・経済への影響を責任あるかつ透明性のある方法で伝達するための標準化されたフレームワークを提供する独立した国際組織です。これらは、企業が報告ガイドラインにおいて開示すべき重要な項目を示しています。

Think Asia. Think Active.

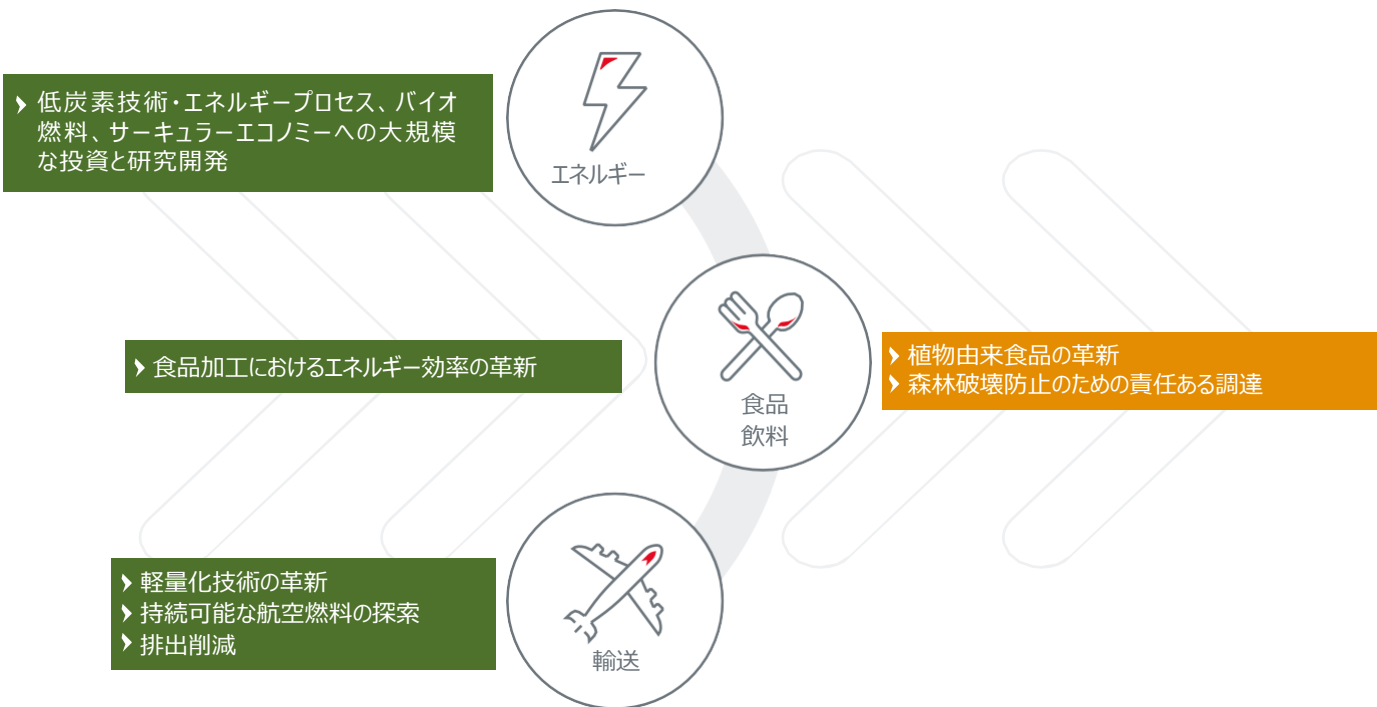


アジアの
持続可能性が
切り拓く投資機会

トランジション（移行）機会とアルファ創出

上場アジア企業には、サステナビリティの取り組みやESG評価を改善する余地があります。現在、アジア企業のうち**37.4%がESG評価「A」以上**であり¹、これは**世界平均48.6%を下回っています**²。グリーン関連製品やサービスで既に収益を上げている企業だけでなく、従来はグリーン移行ソリューションに含まれない業種や企業であっても、より持続可能な事業モデルへの移行を進めています。

アジアの主要セクターに広がる移行機会



“

企業が事業モデルを気候変動に強い構造へと変革し、カーボンフットプリントを削減することで、バリュエーションは上昇する可能性があります。こうした移行の初期段階で参画することは、投資家にとって潜在的に大きなリターンをもたらす可能性があります。

Fabian Graitmann
ポートフォリオ・マネージャー
イーストスプリング・インベストメンツ
(シンガポール)

”

■ 気候緩和（Climate mitigation）：気候変動の原因に対処 ■ 気候適応（Climate adaptation）：気候変動の影響に対処

出所：MSCI ESG Research（2024年12月31日時点） 1. MSCI Asia Pacific IMI. 2. MSCI ACWI IMI.
MSCI指数はMSCI Inc が算出している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はMSCI Inc に帰属します。またMSCI Inc は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

Think Asia. Think Active.

＜当資料に関してご留意いただきたい事項＞

- 当資料は、イーストスプリング・インベストメンツ（シンガポール）が作成した資料をもとに、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社が、情報提供を目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。また、特定の金融商品の勧誘・販売等を目的とした販売用資料ではありません。
- 当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日時点のものであり、当社の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、将来予告なく変更されることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- 当資料では、個別企業や業種・テーマに言及することがありますが、当該企業の株式／債券や業種・テーマについて組入の保証や売買の推奨をするものではありません。
- 当社による事前の書面による同意無く、当資料の全部またはその一部を複製・転用並びに配布することはご遠慮ください。
- 抄訳には正確性を期していますが、必ずしもその完全性を担保するものではありません。また、必ずしも原資料の趣旨をすべて反映した内容になっていない場合があります。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社
金融商品取引業者： 関東財務局長（金商）第379号
加入協会： 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会